令和４年度学生支援プロジェクト事業成果報告書

さぬき再犯防止プロジェクト PROS

代表者　西　田　侑　莉　（法学部法学科３年）
副代表　山　田　羽　里　（法学部法学科３年）
　　中　平　和　泉　（法学部法学科３年）

１．目的と概要

現在、犯罪件数は年々減少している一方で、繰り返し行われる再犯はその犯罪件数の半数を占めています。再犯が行われるのは、刑事施設を出所後、住居・職・身寄りがないために社会から孤立していることが主な原因だとされており、再犯防止のためには、当事者の「居場所と出番」を作ることが重要であると言われています。本プロジェクト事業は、地域の方たちが安全に安心して暮らせる社会を作るために、再犯を防止することを目的として活動しています。そのために私たちは、犯罪や非行の前歴のある方（以下、「対象者」という。）の「居場所と出番」づくりのお手伝いに加えて、一般市民の方が差別なく彼らを受け入れる社会づくりに資する活動を行っています。

２．実施期間（実施日）

令和４年６月２９日から　令和５年３月３１日まで

３．成果の内容及びその分析・評価等

対象者の「居場所と出番」づくりのお手伝いができるよう、①研修会を実施することで再犯防止や対象者の抱える生きづらさについて勉強し、実際に対象者との②交流会を行った。また、再犯防止について大学生や地域の方に知ってもらうために、③映画上映会を行い、④大学祭にも参加した。

＜①対象者の置かれている現状についての研修会の実施＞

・令和４年５月９日、６月２７日　「傾聴講座及び個人情報保護について」
　講師：香川県地域生活定着支援センター所長　福家伸次氏
　　高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点　副センター長　川村圭氏
　　自立相談支援センターたかまつ　相談員　津田理子氏

・令和４年９月１７日　「矯正処遇と刑務作業製品について」
　　講師：高松矯正管区　成人矯正第二課　課長　寺松広記氏
・令和４年９月３０日　「刑事弁護と再犯防止活動」
　　講師：ひらく法律事務所　弁護士　田中拓氏
・令和４年１１月２５日　「少年鑑別所の業務について」
　　講師：法務少年支援センター高松　谷川雄一氏
・令和４年１１月２９日　「共生のための語りと『越境』」
　　講師：医療法人社団光風会　三光病院　院長　海野順氏
・令和４年１２月１４日　「刑務所における教科指導」
　　講師：教誨師　上野忠昭氏
・令和５年２月１６日　「ひらく法律事務所・法テラス見学」
　　講師：ひらく法律事務所　弁護士　田中拓氏

◎本年度は新しい試みとして、**依存症と再犯の関係性**についての勉強会も実施◎
↓

依存症の中には、行為が直接犯罪となる場合（薬物依存者による薬物事犯）のほか、直接犯罪とはならないものの、ギャンブル依存症・アルコール依存症等によって、ギャンブル・アルコールを求めた結果、窃盗に至ってしまう場合もあります。つまり、犯罪をした人が依存症に罹患していた場合、その依存症を治療しなければ、再犯に至ってしまう可能性が高くなります。

依存症となった背景を知ることで、依存症の改善には何が必要なのか、
今後の「居場所と出番」づくりの活動に活かすことを目的としています。
依存症治療に関して県内で最も実績のある三光病院に協力していただきました。
＜活動内容＞
・アメシストのオンラインミーティング（断酒会）に参加
・令和４年６月３日　三光病院にて活動報告
・香川県依存症セミナーへの参加
・AA ミーティングの見学

＜②対象者との交流　「居場所と出番」づくりのお手伝い＞

対象者のお話を聞くことで、その方を受け入れ、その交流自体が対象者にとっての「居場所と出番」となるようにすることを目的としています。
本年度は、３名の対象者と交流会を行いました。

茶話会（まーさん）
昨年度から継続して、毎月定期的に行いました。
折り紙や絵しりとりなど、まーさんが得意とする手作業を取り入れながら会話をすることで、話しやすい雰囲気になるよう心掛けました。

➡交流会の場を毎回楽しみにしてくださり、「茶話会は宝物だ」と言ってくださいました。茶話会を重ねるごとに、まーさんから話をしてくれることも増え、自分の過去のお話もしてくれるようになりました。香川県地域生活定着支援センター所長の福家氏からは、交流会を始めてから、まーさんが再犯していない期間が延びているというコメントをいただきました。

・（こーさん）
：本年度から、２カ月に１回のペースで行いました。
薬物依存症の治療中で、こーさんの体験談を聞きながら、学生も依存症について勉強を行いました。

➡日常生活での趣味や楽しみを見つけるために、簡単な工作や料理を一緒に行うことを計画しています。

・草刈ボランティア（くーさん）
：本年度から草刈活動という形で交流会を行いました。

➡学生のためにお菓子やジュースを用意してくださり、毎回の交流会を楽しみにしてくださっている様子が見られました。

◎リスクマネジメントについて◎

交流会では、地域生活定着支援センターの方や、相談員の方の付き添いのもと行っていますが、学生が対象者からお話を聞くうえで、以下の４つの個人情報保護を遵守したうえで活動を行いました。

Ⅰ対象者

…交流会で関わる対象者については、香川県地域生活定着支援センター所長　福家氏　と顧問教員　平野教授等との協議のうえ、紹介していただきました。

Ⅱ活動前

…交流会に参加するには、個人情報の取扱いに関する研修（上記①研修会）を受けることを必須としています。また、個人情報保護を遵守するという誓約書を顧問教員の平野教授に提出することを義務付けています。

Ⅲ活動中

…交流会に参加する際は、提出した誓約書のコピーを持参することを義務付けています。また、交流会では PROS ネームというニックネームを利用しています。対象者と学生がお互いに本名とは関係のない PROS ネームで呼び合うようにしています。

Ⅳ取材

…以下で記載しているように、本年度は多くのメディアに取り上げられました。そのため、取材を受ける際には、PROS 代表、顧問教員の平野教授、メディアの方で取材内容に関して検討し、交流会の取材をする際には、対象者の許可も得たうえで取材を受けました。

＜③地域の方や学生に現状を知ってもらうための活動　映画上映会＞

地域の方や、これからの社会を担っていく若者に知ってもらうことで、非行経験のある少年少女に対する差別を減らし、出院後の少年少女が少しでも立ち直りやすい社会環境にすることを目的に、非行少年を取り巻く環境に着目した「記憶」の自主上映会を行いました。

日時：2022 年 7 月 18 日（月）16 時 30 分～
場所：香川大学 法学部棟 J3・J1 教室
参加者：香川大学 学生約 160 名・学外の方 50 名
〈トークセッション登壇者〉中村すえこ監督
由良徹氏（保護観察官）
藤原誠氏（元児童自立支援施設職員/公認心理師）

映画上映後には、上記の方々にトークセッションをしていただきました。また、全体の上映会終了後に、プロジェクトメンバーと中村すえこ監督で座談会を行い、「非行少年の更生に必要なものはなにか」など、映画の内容を掘り下げた話をしてくださいました。

参加者の学生と学外の方については、上映会後にアンケートを実施しました。アンケート結果（一部）は以下の通りになります。

〇学生へのアンケート結果〇

・非行少年に対する変化はありましたか？
→**はい：５５．８％**／いいえ：４５．２％

・変化したイメージについて
→「非行少年に対して悪いイメージしかなかったが、ちゃんと自分と向き合って更生している」
「加害者だけの問題ではなく、そのバックグラウンドが影響を与えている」
「非行少年には虐待やいじめなど、様々な背景がある」など

・新たに興味を持ったものについて（上位３つ）
→保護観察官、保護司：４２．３％　　法務教官の仕事：３５．６％
少年院での処遇について：３１．７％

〇学外の方へのアンケート結果〇

・非行少年に対する変化はありましたか？
→**はい：５０％**／いいえ：５０％

・変化したイメージについて
→「非行少年だけの問題ではなく、周囲の環境の問題」
「非行少年に対する偏見が弱くなった」
「非行少年が立ち直るきっかけは大人が作らなければならないし、迷ったときに相談したり頼れる人が必要」など

＜④地域の方や学生に現状を知ってもらうための活動　大学祭　CAPIC 製品の展示会＞

地域の方や学生に対して、再犯防止の現状や受刑者の生活などを知ってもらい、多様な人を受け入れる社会づくりに資するため、本年度初めて大学祭に参加しました。

日時：10 月 29 日（土）・30 日（日）　9:00～18:00
場所：教育学部棟 412 教室
内容：CAPIC 製品（刑務作業製品）の展示、パネル展示
来場者：約 200 名
<u>協力：高松矯正管区</u>

CAPIC 製品とは、刑務所で受刑者が作っている製品（刑務作業製品）のことであり、高松矯正管区のご協力のもと、CAPIC 製品の展示を行いました。また、「受刑者の生活」という普段の生活では触れることのない内容を学生や地域の方に知ってもらうため、受刑者が実際に着用している受刑服の展示や、受刑者の食事を紹介したパネルの展示を行いました。

来場してくださった地域の方や学生には、プロジェクトメンバーが積極的に声をかけ、PROS の活動紹介や再犯防止に関する説明をして交流しました。来場者からいただいたコメントを一部紹介します。

「知らない世界を知れた貴重な機会になりました。」
「受刑者のことを普段考えることがないので、
今回考える機会ができてよかった。」
「犯罪をなくすには犯罪の背景をみんなが知らないといけないし、罪を犯さないような教育や出所後に生活していけるスキルや環境を整えることが大事。」

ほかにもたくさんのコメントをいただきました。

＜そのほかの活動＞

○令和４年６月７日　香川大学　前期公開講座（中井今日子先生）での活動報告

…香川大学が地域の方を対象に実施している前期公開講座で活動報告をさせていただきました。地域・産官学連携戦略室 客員教授　地域連携コーディネーター　中井今日子先生が担当する講座の第３回「傾聴」にて活動報告を行い、地域の方からの再犯防止やプロジェクト活動に関する質疑応答も行いました。

○令和４年１０月１２日　高松刑務所の受刑者との対談

…大学祭の事前準備として、実際に CAPIC 製品（刑務作業製品）を作っている受刑者に話を聞くため、高松刑務所にて３名の受刑者、学生４名、顧問教員平野先生で対談を行

いました。高松矯正管区の職員の方のもと、「製品を作るうえで気をつけていること」「大学祭で製品を見に来てくださった方に伝えてほしいことはあるか」などの質問をしました。受刑者から聞いた話は、パネルの形で大学祭当日に展示し、来場者の方々に紹介をしました。

○令和４年１２月２２日　愛媛県新居浜西高校の学生との交流会

…愛媛県新居浜西高校の先生から声をかけていただき、高校生４名とプロジェクトメンバー６名で交流会を行いました。PROS の活動紹介や、再犯防止について、出所者や元受刑者に対するイメージなどの意見交換を行ったあとは、大学案内も行いました。

○令和５年２月１５日　高松地方検察庁・高松矯正管区・高松保護観察所との意見交換会

…実際に再犯防止の業務に携わっている関係機関と意見交換会を行いました。PROS と各関係機関から再犯防止に関する取り組みの報告を行ったあとは、３つのグループに分かれて、PROS の学生と関係機関の職員の方々で交流を行いました。再犯防止に関する情報共有だけでなく、学生にとっては就職に対する視野が広がる機会にもなりました。

○長崎大学　たまごの会との交流

…②で紹介した研修会では、PROS の学生だけでなく、長崎の大学生団体である長崎多職種連携・たまごの会の方々も Zoom という形で参加していただきました。また、令和５年３月２０日に、PROS の学生とたまごの会の学生で Zoom にて、意見交換会を行いました。それぞれの活動報告に加え、「再犯に至る人にとって必要な支援はなにか」など、福祉や医療を専門とするたまごの会の方々と話し合うことで、異なる視点から再犯防止について学ぶことができました。

○月に１回の定例会

…定例会では、毎月の活動の情報共有を行うだけでなく、学生同士のコミュニケーションもとることができました。また、定例会は PROS の学生、顧問教員の平野教授に加えて、以下の方々に参加していただきました。

香川県地域生活定着支援センター所長 福家伸次氏
高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 副センター長　川村圭氏
自立相談支援センターたかまつ 相談員　津田理子氏

月に 1 回の定例会に実務として働かれている方々に参加していただくことで、学生が活動中に困ったことがあれば相談できる環境を作ることができ、毎月の活動をスムーズに行うことができました。

＜マスメディア＞

・R4.7.22 毎日新聞

・R4.7.28 読売新聞

・R4.8.1 KSB

https://www.youtube.com/watch?v=NOvqvqm2-UI&ab_channel=KSB%E7%80%AC%E6%88%B8%E5%86%85%E6%B5%B7%E6%94%BE%E9%80%81

・R4.9.13 FM 香川 NEXT STAGE

・R4.11.7 KSB

https://www.youtube.com/watch?v=ULWL4SacMpo&ab_channel=KSB%E7%80%AC%E6%88%B8%E5%86%85%E6%B5%B7%E6%94%BE%E9%80%81

・R4.11.20 愛媛新聞

・R4.11.23 沖縄タイムス

・R4.11.24 日経新聞

・R4.11.27 読売新聞

・R4.12.31 毎日新聞

出所者の生きづらさ 知って
香川大生ら 再発防止へ交流続け

出所後 孤立させない
香川大生 再犯防止企画
受刑者の思い 伝える

・R5.1.20 共同通信 https://nordot.app/985831431171325952?c=39546741839462401

・R5.1.21 KSB テレメンタリー

「となりにいる～大学生が向き合う再犯防止～」

（全国放送 30 分）

https://www.youtube.com/watch?v=Lo5sLFRxjtM&ab_channel=ANNnewsCH

・R5.1.26 大阪日日新聞、西日本新聞

・R5.2.10 毎日新聞、信濃毎日、岩手日報

４．この事業が本学や地域社会等に与えた影響

上記のように、本年度は多くのマスメディアに取り上げられたことで、PROS の取り組みを広く周知することができました。令和４年１２月２２日に行った高校生との交流会は、KSB で取り上げられたことをきっかけに声をかけていただき、実施することができました。再犯防止のための「居場所と出番」づくりは、対象者に対する活動だけではなく、地域の方や自分たち学生が、社会で出所者を受け入れることも必要になります。そのためには、再犯防止がなぜ必要なのか、生きづらさを抱えている出所者がいることを知り、出所者や元受刑者に対する偏見を持たないことが求められます。そのうえで、本年度、多くのマスメディアに取り上げられたことで、多くの人に再犯防止について知ってもらうことができたのではないかと思います。

また、映画上映会、大学祭で地域の方や学生と交流したことにより、多くの人が「受刑者は自分とは関係のない世界の人だ」と感じていることが分かりました。受刑者はいずれ社会に出て生活をしなければならず、そのうえで自分たちは受刑者を社会で受け入れる立場にあり、全く関係のない存在ではありません。犯罪や非行の背景には、被虐待経験、住居や職がないなど、社会からの孤立が影響を与えている場合もあるということを知っても

らい、多様な人を受け入れる地域づくりに資することができたのではないかと思います。

５．自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本年度は、大学祭での CAPIC 製品の展示会、愛媛県新居浜西高校の学生との交流会、高松検察庁・高松保護観察所・高松矯正管区との意見交換会において、自分たちの活動を説明する機会があり、メンバーの一人一人が活動を客観視し、言語化することができるようになりました。映画上映会の際には、家庭裁判所、県庁、検察庁など、様々な機関へ学生が手分けして広報に行き、学外の人とか関わるうえで、連絡の取り方や広報の仕方を学ぶことができました。

また、様々な機関と連絡を取り合う機会が増えたことから、メールのやり取りに不備がないか、メンバーや顧問教員を通しての確認を徹底しました。活動を行う上で必要になってくる情報の伝達についても、昨年の反省を生かし、グループラインでの通知、Google ドライブなどのアプリの活用に加えて、月に 1 回の定例会で情報共有するようにしました。これらのことを通して、責任を持って仕事を遂行することができるようになりました。

本年度も、多くの研修会の参加を通して、今までなじみのなかった分野にも興味・関心を持ち、様々な視点からの考えを取り入れることによって、物事の視野を広げることができました。さらに、様々な関係機関の方に出会うことで、就職に対する視野が広がり、実際に再犯防止に携わる仕事を目指す学生も現れました。交流会においては、相手の話を聞き、共感することの大切さを改めて感じました。対象者との接し方や活動方法をメンバー内で検討し実践していったことで、計画力や行動力、協調性を培うことができ大変有意義でした。

６．反省点・今後の展望（計画）・感想等

＜反省点＞

本年度の活動においての反省点は、新規メンバーを十分に増やすことができなかった点です。授業時や大学祭を利用して広報を行い、新規メンバーの勧誘を行いましたが、やむを得ず活動の継続が維持できない学生がいたこともあり、特定の学年だけ人数が少なく、運営面で人手不足になったりと、依然として新規メンバーの勧誘が必要であると感じました。また、細かい点として、行事やミーティングに参加できる学生が限られたり、伝える情報が多く、受け取る側の学生がすべてを把握することができなかったりと、情報量に偏りが出てしまいました。次年度においては、定例会を原則対面で実施することにより、日頃から学生間でコミュニケーションを取れるような環境づくりにしたいと考えています。さらに、現段階のメンバーには法学部の学生が多く、他学部の学生にも参加してもらえるよう、授業での広報先を広げることも検討したいと考えています。

＜今後の計画＞

本年度は、新たな試みとして、依存症と再犯の関係について知識を深める研修会を取り

入れました。次年度においては、この依存症と再犯に関してより深く勉強するため、依存症回復者の方からお話を聞くシンポジウムを計画しています。

また、次年度も大学祭へ参加し、地域の方や学生と交流する機会を設けたいと考えています。本年度の大学祭で高松矯正管区に協力していただいたことをきっかけに、PROS と高松矯正管区でコラボした CAPIC 製品（刑務作業製品）の新製品を作ることを計画しており、次年度の大学祭で新製品の展示をする予定です。

＜今後の課題・感想＞

本年度、活動の幅が広がったことにより、関係機関だけでなく地域の方へ活動報告を行う機会が多くありました。今後も活動報告を行うにあたって、**再犯防止とは加害者を優遇うするための活動ではなく、「安心で安全な地域づくりに資するための活動」であり、前提には「新たな被害者を生み出さない」という目的がある**ことを改めて勉強しなければならないと感じました。活動で関わる地域の人、学生、すべての人が再犯防止の取り組みに対して肯定的な意見を持っているわけではありません。様々な意見を持った人がいることを理解したうえで、自分たちの活動や再犯防止について、どう伝えていけば良いのかを今後の課題として考えていきたいと思います。

７．実施メンバー

代表者	西田　侑莉	（法学部３年）			
構成員	山田　羽里	（法学部３年）		平尾　優衣	（法学部３年）
	中平　和泉	（法学部３年）		田丸　佳穂	（法学部３年）
	岩崎　絵里	（法学部３年）		富永　青空	（法学部３年）
	三森　遥佳	（法学部３年）		入口　創太	（法学部３年）
	平野　葵	（法学部４年）		石原　佳奈	（法学部４年）
	長尾　美玖	（法学部４年）		川口　亜祐	（法学部４年）
	武田　夢咲志	（法学部４年）		智葉　瑛海	（法学部４年）
	小川　務	（法学部４年）		西山　貴大	（法学部４年）
	天野　和奏	（法学部４年）		藤島　汐里	（教育学部４年）
	藤本　唯	（法学部４年）		水谷　麻衣	（法学部４年）
	森　龍一	（法学部４年）		重松マーティン春哉	（法学部２年）
	大屋　郁人	（経済学部２年）		大戸　康平	（法学部１年）
	佐藤　琴乃	（法学部１年）		中村　彩乃	（法学部１年）
	宮本　珠実	（法学部１年）		山崎　汐里	（法学部１年）

８．執行経費内訳書

配　分　予　算　額		２９９，９１７円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備　考
映画物品費用（養生テープ等）			３，８７８	
映画『記憶』上映権料			１００，０００	
映画トークセッション　謝金等			８４，１４０	
交流会　会場費			４，２６０	
交流会　交通費	６	８２０	４，９２０	
交流会　物品			４，５４０	
研修会　講師謝金（６回実施）			８４，０００	
研修会　講師　飲料水	８	１００	８００	
コピーインク			１１，５６５	
コピー用紙	１	５８２	５８２	
合　　計			２９８，６８５	

９．謝辞

本プロジェクトの活動にあたり、

香川大学法学部教授　平野美紀氏
香川県地域生活定着支援センター 所長 福家伸次氏
高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 副センター長 川村圭氏
自立相談支援センターたかまつ 相談員 津田理子氏
ひらく法律事務所 弁護士 田中拓氏
三光病院　院長　海野順氏

には月に１回の定例会への参加、活動におけるアドバイス、上映会での司会進行など、専門知識とご経験に基づく、さまざまな視点から多くのご尽力を賜りました。
この場を借りて御礼申し上げます。